

「やりましょう盆踊り」は下記企業の皆さまにご協賛いただき、開催しました。



盆踊りの「輪」から広がる「和」。

やりましょう盆踊り。

2014年 実施報告書



やりましょう盆踊り実行委員会

■主催／河北新報社営業局 運営事務局／河北アドセンター

盆踊りの「輪」から広がる「和」。

やりましょう盆踊り。

盆踊りで輪をつくり、東日本大震災で犠牲になった方の供養と鎮魂、そして復興へ向けてコミュニティをさらに結びつける事を目的とした「やりましょう盆踊り」プロジェクト。

開催3年目となった今年は、仙台七夕まつり期間中の3日間、つなぎ横丁を舞台に「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」を開催（8月8日は雨天により開催中止）、亶理町・唐桑町では「やりましょう盆踊り」を開催しました。

仙台七夕まつりでは地元宮城の方々と観光客と一緒に輪をつくり、七夕おどりと宮城県内各地に伝わる盆踊りを踊り、全国に「宮城」の元気な姿を発信。

亶理町・唐桑町では震災で離散した方々の再会や新たな親睦を生み、大人も子どもも笑顔で輝く光景であふれました。

各会場には、6月～7月の2か月間開催した「盆踊り練習会」によって育成した踊り手ボランティア、唄い手・お囃子ボランティアの皆さまにもご参加いただき、夏のひとときを盛り上げていただきました。

私たちはこの「やりましょう盆踊り」の「輪」から、絆や笑顔の新たな「和」が広がる事を願ってやみません。ご協賛を頂いた各社様をはじめ、盆踊りの運営にご協力をいただいたすべての皆さまに心より御礼を申し上げます。

やりましょう盆踊り実行委員会

■主催／河北新報社営業局 運営事務局／河北アドセンター

2014年度の開催日程

やりましょう盆踊り **盆踊り練習会**

開催場所／河北新報社別館5階ホール

6月10日(火)、6月17日(火)、6月24日(火)、
7月1日(火)、7月8日(火)、7月15日(火)、7月22日(火)、7月29日(火)

やりましょう七夕おどり・盆踊り

④仙台七夕

開催場所／つなぎ横丁

8月6日(水) 18時～20時30分
8月7日(木) 18時～20時30分
8月8日(金) 雨天により開催中止

やりましょう盆踊り

④亶理町

開催場所／亶理町吉田地区交流センター

8月14日(木) 18時30分～20時30分

やりましょう盆踊り

④唐桑町

開催場所／気仙沼市唐桑町(通称:町屋敷)

8月16日(土) 18時～21時

〈踊り手支援〉

2014みちのく川崎花火フェスタ

7月26日(土) 15時～21時

やりましょう盆踊り in アリオ仙台泉

8月23日(土) 13時～14時30分、16時～17時30分

仙台七夕まつりとコラボレーション

やりましょう七夕おどり・盆踊り

in 仙台七夕

3年目の「やりましょう盆踊り」は、これまで行ってきた被災沿岸部の支援に加え、仙台市中心部で被災地のご当地盆踊り曲を踊る“まちなか盆踊り”にも取り組みました。東北三大夏祭りの一つ「仙台七夕まつり」の主催事務局である仙台商工会議所様から、「七夕おどり」を大勢で踊る場をつくりたいというご相談をいただき、被災沿岸部の盆踊り曲を加えた内容を提案。「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」として実行することになりました。

支援先のご当地盆踊り曲を仙台へ

「七夕おどり」は、仙台七夕まつりのテーマ曲ともいえる曲です。「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」では亙理町出身の歌手・美波京子さんに「七夕おどり」を披露していただきました。

盆踊り曲には、仙台のご当地曲として「宮城野盆唄」と「相馬盆唄」を取り上げ、沿岸部からは、動きが軽快で若い世代に受けのよい、東松島市宮戸地区の「宮戸音頭」、やりましょう盆踊りの支援で復活した山元町花釜地区の「花釜音頭」、観光客の方も耳になじみのある斎太郎節が組み込まれている、石巻市の「大漁唄い込み」を選びました。いずれも支援先現地から日替わりで毎日数十人、送迎バスで来仙をお願いし、仙台市民や観光客と踊りを通じて交流していただきました。(最終日は雨天により開催中止)

七夕会場の一角に特設盆踊り広場

会場は、市民広場とアーケード街の間をつなぐ「つなぎ横丁」。ここを歩行者天国にし、会場の広さに合わせたコンパクトな可動式櫓を新たに製作して設置しました。日が落ちるとビル群を背景に、色鮮やかな提灯を飾り付けた櫓が浮かび上がり、盆踊りの情緒あふれる空間が出現。新聞告知などを見て踊りに来た市民のほか、外国人観光客や勤め帰りの会社員も加わり、新しい“まちなか盆踊り”は大きな賑わいとなりました。

踊り、歌、お囃子 ボランティアが大活躍

実施に当たっては、生演奏と踊りの輪を支える踊り手の確保に留意しました。このため、踊り手、歌い手、お囃子に興味のある市民にボランティアとして大勢参加していただけるよう、2カ月間の練習会を実施。お囃子は、仙臺すずめ踊り連盟を通じて加盟祭連の囃子方に呼び掛け、臨時のお囃子チームをつくっていただきました。歌も踊り手ボランティアの皆さんがチャレンジしました。取り上げた曲のうち、「七夕おどり」は歌詞曲で歌いやすく、知名度も高い曲です。そこで、本番の七夕おどりタイムで一般来場者にも呼び掛け、勤め帰りや出張のついでと思われる男性が5人ほど登壇して歌っていただきました。



踊り手・歌い手・お囃子育成を目的に、「盆踊り練習会」を全8回開催。

盆踊りの輪を最初につくり始める人が多いほど、人が人を呼び込み、輪がつながり、大きく楽しげに広がっていきます。このため、2012年、13年とも、沿岸部支援の盆踊りに踊り手ボランティアの参加を呼び掛けてきました。2014年はさらに積極的に取り組み、踊り手に加えて歌い手、お囃子も育成できればと、「盆踊り練習会」を開催しました。会場は河北新報社別館5Fホール、期間は6月10日～7月29日の2か月間で、毎週火曜夜に2時間。告知を6月上旬から「河北ウイークリーせんだい」「河北新報朝刊」「S-Style」、イベント情報サイト「きてけさin」などで行い、1回目は18人、翌週から回を追って10人前後ずつ参加者が増え、最終回は80人弱に。熱気こもった練習会になりました。杜の都親善大使の方々やモデル集団「仙台美人時計」の女性モデル約10人が練習会と七夕会場に参加し、若い世代への訴求に協力してくれました。

練習会は、通常は実行委員会のメンバーが踊り方や歌い方を紹介、山元町花釜地区の花釜音頭保存会の皆さん、日本フォークダンス連盟宮城県支部日本民謡部会長・星とよ子さんにも一週ずつ、指導をお願いしました。また、浴衣の着付け練習会を3回実施。仕事帰りに参加する人も多いため、練習会場には麦茶のほかおにぎりなどをご用意し、これが好評でした。



練習した曲

七夕おどり 宮城野盆唄 相馬盆唄 宮戸音頭 花釜音頭 大漁唄い込み 炭坑節 北海盆唄

浴衣支援150着

今年の沿岸部支援先2か所のうち、亙理町浜吉田地区から「浴衣を着て普通の盆踊りができるようになった、という最初の年にしたい」と浴衣支援の要請がありました。2012年、13年にも協力して下さった日本女子大学の被服科同窓会「衣(きぬ)の会」、史学科同窓会「歴女の会」、フォークダンス研究会OGの皆様や、千代田区シルバー人材センター様、和みの会様、仙台や首都圏の個人有志の皆様から、家庭に

眠っている浴衣や新品を提供いただき、大人用と子ども用合わせて150着をお届けしました。盆踊り当日に、好きな色柄を選んで着ていただき、盆踊り会場は浴衣姿でいっぱい。前日に盆踊りを開催した近隣被災地区から参加した方が「浴衣があるとまでは、盛り上がり具合が全然違う」と驚いていました。たくさんの方の善意をありがとうございました。



踊り手・歌い手・お囃子育成練習会 (レポート／実行委員会・与野)

◆開催期間／6月10日～7月29日の毎週火曜19:00～21:00 ◆開催場所／河北新報社別館5階ホール ◆参加費／無料



▲盆踊り練習会参加者と実行委員会の集合写真

第1回 6/10(火) 参加者18人

何人参加があるか見当のつかない状態で迎えた第1回。予想では10人程度かと思われたが、20人近くの参加があった。七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄(全国に普及している踊り方)の踊りを練習。歌詞カードを見ながら全員で、CD録音に合わせて七夕おどりと宮城野盆唄を歌ってみる。宮城野盆唄は初めて耳にする、という人が多く、短く区切って、ゆっくり練習した。



第5回 7/8(火) 参加者55人 (うち初参加11人)

日本フォークダンス連盟宮城県支部・日本民謡部会の部長、星とよ子さんに来ていただき、七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄(全国版)の踊り方について、きちんと紹介していただく。1、2回目からの参加者はだいぶ踊りに慣れてきていたが、「動作は大きく、顔を上げて。そうするときれいに見えますよ」など踊り上手になるポイントを教わり、自分の踊りに自信が出てきた様子。杜の都親善大使の庄子公美子さん、熊谷望那さんが参加。



第2回 6/17(火) 参加者28人 (うち初参加17人)

練習内容は1回目と同じく七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄の踊りと歌。子どもさんと一緒に参加するママや、1回目に参加した方に誘われた外国人女性も参加し、多彩な顔ぶれに。最後に炭坑節もさりと紹介。締め太鼓は経験があるが、今回大太鼓にチャレンジしてみたいという男性参加者が加わり、以後毎週、早めに来て会場備え付けの大太鼓で自主練習に励む。



第6回 7/15(火) 参加者53人 (うち初参加16人)

踊り練習の前に1時間、浴衣を自分で着られるようにするための着付けの練習会を行った。指導は中心商店街で和カフェを営み、着物や和楽器の楽しみを広めている中野由美さん。女性が16人ほど、男性も2人習う。踊りは七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄に加え、宮戸音頭を紹介。エネルギーで楽しいが、動きの種類が多い難解な曲。この日は、宮城美人時計に登録のモデルさんたちが、踊り手ボランティアとして練習に参加。若い世代が増え、会場の活気が増した。「宮戸音頭」練習の様子が後日、河北新報記事で紹介された。



第3回 6/24(火) 参加者41人 (うち初参加17人)

山元町の花笠音頭保存会から、代表・伊藤てる子さん、副会長・菊地ミサホさん、会員・渡辺和子さんの3人来仙いただき、花笠音頭にチャレンジ。「難しい!」の声があちこちから上がったが、伊藤さんの軽妙な語り口に励まされ、何回も繰り返して練習。休憩タイムには85歳という菊地さんが作りため50個ほど持参して下さった手づくりの貝の携帯ストラップを参加者にお配りし、花笠の3人を囲んで話も弾む。このほか、花笠地区の踊り方で相馬盆唄を練習。七夕おどり、宮城野盆唄も軽く復習。



第7回 7/22(火) 参加者58人 (うち初参加5人)

「記事を見た。宮戸音頭は随分前に自分たちが練習を指導したので、ぜひ協力したい」という電話があり、急ぎ練習会に来ていただいた。宮戸島出身で、現在は多賀城市在住の安達絹子さんと、東松島市野蒜地区に住んでいて津波で大きな被害を受けたという尾形妙子さんの姉妹。持参いただいたシングルレコード盤には写真付きの踊り方説明がついており、写真モデルは尾形さんだという。「浜の女性は元気だから、踊りも元気よく!」と励まされながら、何度も踊る。「慣れると楽しい、面白い曲」と宮戸音頭の人気が上がった。



第4回 7/1(火) 参加者51人 (うち初参加14人)

前週に習った花笠音頭を思い出しながら復習。飲み込みの早い方を手本にしながら何度も踊り、少し体になじんだ様子。相馬盆唄は、全国版と花笠版を復習。回を重ねるごとに10人程度ずつ増え、輪は時折三重になるほど。この日はお囃子にチャレンジしてくれる方たちが初参加。歌の練習タイムに笛を取り出し、声の高さを確認。「この歌には笛が合う、この曲は尺八の方が向くかも」など相談する。杜の都親善大使の一人、蓬田みなみさんが参加。



第8回 7/29(火) 参加者73人 (うち初参加17人)

最後の練習会には大勢が参加し、大変な熱気。大漁唄い込みをこの日初めて練習する。全国的に有名な斎太郎節と石巻の遠島甚句のメドレー。元民謡歌手で大漁唄い込み全国大会で優勝経験もある伏見綾花さんが歌い手ボランティアとして参加。ほか、七夕おどり、宮城野盆唄、相馬盆唄もおさらいする。この日は仙台市中心部・五橋公園の夏祭りで盆踊りを担当する若い女性会社員や学生が3人初参加。皆さん、練習自体を楽しんできたため、名残り惜しく解散した。



8/6(水) やりましょう七夕おどり・盆踊り

仙台七夕 (レポート/実行委員会・小野)

◆開催地/仙台市 つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
 ◆開催時間/18時~20時30分

「キンキンきらきらお星さまうれしそう」。仙台七夕の初日を飾る七夕おどり・盆踊り。人の輪が幾重にもなって盛り上がる。

昨年の「やりましょう盆踊り」開催地、東松島市宮戸エリアの方々約20名をお招きして始まった今年の「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」初日。宮戸は松島湾に浮かぶ島。橋が掛かっているので車で行くので地続きのようですが、奥松島とも呼ばれ、震災前は松島の風景をダイナミックにした景観美が広がる所でした。4つの浜(大浜・室浜・里浜・月浜)を中心に集落があり、現在は、浜の周辺に整備された仮設住宅にお住まいの方が多いようです。そこからお越しいただいた踊り手さん達はすでに色彩豊かな浴衣を身にまとい、いつでも準備OK。開始時間18時を待ちます。同時刻、猛烈な台風11号の影響でここ仙台も開始前にバラバラと小雨が舞い実施が心配されましたが、30分遅れでなんとか開始の目途がつかしました。勾当台公園市民広場と定禅寺通りをつなぐ「つなぎ横丁」を会場に、亙理町出身の歌手・美

波京子さんが唄う「七夕おどり」で今年の「やりましょう盆踊り」が開幕しました。橋の上から仙台市民にはおなじみの「キンキンきらきら、お星さまうれしそう」。この曲が流れたすと何処からともなく浴衣姿の人が橋の回りを取り囲み、うちわをヒラヒラなびかせ、見物客を輪の中に誘います。あつと言う間に橋の回りには二重、三重の踊りの輪が出来ました。プロバスケットボールbjリーグ「仙台89ers」のチアリーダーたちも合流していただき、気分が華やきます。七夕おどりは比較的簡単な振り付けで、当日飛び込み参加の方も大勢いらっしゃいました。次の宮戸音頭は体全体を使って波をドンブラコと描く躍動的な踊りでテンポも良く、宮戸から来た踊り手さんたちが中心に踊りがさらに盛り上がります。首にかけたやりましょう盆踊りオリジナル手ぬぐいも観光客・外国人の方に大好評で踊りの演出に一役買っていました。



時間の経過と共に踊りの輪はふくらみ、演奏にも力が入る。

協賛社ブース出展内容

- 協賛社ブース/なし
- 城南建設様/チラシ配布、うちわ配布 ○フェニーチェホーム様/チラシ配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布
- 実行委員会/運営テント、河北ウイークリーせんだい、「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」特集の配布
- 着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

- 櫓/一式 ○太鼓/一式 ○テント/2張 ○発電機/3台 ○照明/4灯式投光器×2台 ○アイスBOX ○テーブル/10脚 ○椅子/30脚



子供たちも見よう見まねで宮戸音頭をドンブラコ。



飛び入り参加の外国人の方も、日本の伝統文化盆踊りに興味深々、楽しそう。



会場に配布されているやりましょう盆踊りオリジナル手ぬぐいを首に巻き、さぁレッツダンス!



本日、お越しいただいた東松島市宮戸エリアの踊り手のみなさん。浴衣を来ており、準備万端。



美波京子さんの「七夕おどり」の歌声が会場に流れると、いよいよスタート。



89ersチアリーダーも一緒に七夕おどり。



ボランティアスタッフとして参加していた明治学院大学、中央大学の学生さんも最後は一緒に七夕おどり。



踊りの輪は二重三重に膨れ上がり、観光客も、地元の方も一緒に踊った。



美波京子さんには、最初と最後の2回ご出演いただいた。



「やりましょう七夕おどり盆踊りin仙台七夕」の三日間のために制作した、可動式櫓。祭りの象徴として辺りを照らした。



今年も大活躍、おなじみの河北新報社イメージキャラクター「かほピョン」。



昨年の「やりましょう盆踊りオリジナルうちわ」をお持ちの方も沢山いらっしゃり、盆踊りを盛り上げた。



実行委員会・小野による踊り指導を折々に行い、多くの方を踊りの輪に呼び込んだ。



手ぬぐいを使った「宮戸音頭」のリズムカルな踊りに、関心が集まった。



ご来場の方にも櫓に上がって「七夕まつり」を唄っていただいた。

8/7 (木) やりましょう七夕おどり・盆踊り

(レポート／実行委員会・土井)

◆開催地／仙台市 つなぎ横丁(仙台七夕まつり おまつり広場)
 ◆開催時間／18時～20時30分

当日の悪天候も開始直前に雨が上がり無事開催。
 山元町花釜地区の皆さんも加わり、明るい笑顔が弾けました。

仙台七夕まつりでの「やりましょう盆踊り」開催2日目、日中からの雨模様で天候が心配されました。ところが、踊り手ボランティア始め、運営スタッフの願いが通じたのか開催時間前には雨が上がり、その後は再び雨が降ることもなく予定通りの実施となりました。

盆踊りは昨日同様、美波京子さんの「仙台七夕おどり」の歌唱から始まりました。この日は山元町花釜地区の花釜音頭保存会から踊り手・お囃子として約40名の皆様がありました。「花釜音頭」は以前からあったご当地民謡が東日本大震災後に盆踊り曲として誕生した踊りで、踊りに先立ち保存会の伊藤てる子会長から震災後の支援、本イベント参加にあたっての実行委員会への感謝のお言葉、また山元町の復興と「花釜音頭」振興への想いなどをお話いただきました。

2日目は、「仙台七夕おどり」「宮城野盆唄」「花釜音頭」の3つ

の踊りが踊られましたが、お囃子には仙台すずめ踊り祭連有志の方にも加わっていただき、花釜音頭保存会の皆様の桃色と紺を基調とした鮮やかな法被と合わせ、会場は大変華やかな雰囲気になりました。普段馴染みのない「花釜音頭」を前に会場周辺を通行される方たちが思わず足を止め興味深そうに眺めている姿が印象的でした。

日中の悪天候の為か、会場周辺の来場者も仙台七夕まつり初日に比べ少ないようでしたが、終盤には参加者が増え二重の輪ができるとともに笑顔が飛び交いました。また、花釜音頭保存会の皆様からは「東北三大祭りで郷土の踊りが踊れて感激」「気持ちの張りになった。刺激になった」というお声もいただき、3年目を迎える「やりましょう盆踊り」としては意義深い一日となりました。

協賛社ブース出展内容

- 協賛社ブース／なし
- 城南建設様／チラシ配布、うちわ配布
- フェニーチェホーム様／チラシ配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布
- 実行委員会／運営テント、河北ウイークリーさん、「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」特集の配布
- 着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

- 機／一式
- 太鼓／一式
- 音響／一式
- テント／2張
- 発電機／2台
- テーブル／10台
- 椅子／20脚



終盤は「七夕おどり」に合わせ二重の輪で盛り上がった。花釜音頭保存会、踊り手ボランティア、来場者が一体となって笑顔があふれた。



桃色と紺を基調とした色鮮やかな法被。保存会の方々により震災後に誕生した「花釜音頭」が披露された。



かほピョンも登場。時折踊りの輪の中に加わり楽しそう。この日も子どもたちの人気者だった。



檜の上での「花釜音頭」の振り付けの紹介。山元町名産の苺を摘む姿が振付された郷土色あふれる踊り。



雨模様で開催が危ぶまれたが、開始時間前には雨が上がり無事開催。



来場者へ「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」の開催を知らせるプログラム看板。



初日に続き、美波京子さんの「七夕おどり」歌唱からスタート。仙台市民にはおなじみの歌が響き渡った。



山元町花釜地区「花釜音頭」保存会の方々が到着。イベント冒頭の「七夕おどり」から加わっていただいた。



花釜地区からはお囃子の方々も参加。会場を威勢のいいお囃子で盛り上げた。



「花釜音頭」披露にあたり、花釜音頭保存会・伊藤てる子会長からの挨拶。



普段見慣れない珍しい「花釜音頭」に通行者も思わず足を止める。



小さなお子さまも保存会の方に振付を教えてもらいながら。



会場内に飾り付けられた竹飾りを盆踊りとともに楽しむ観光客。



仙台市秋保温泉のご当地アイドル「Are湯Lady」も飛び入り参加。



初日に続き終盤は「七夕おどり」で盛り上がる会場。2日目もクライマックスへ。



終了後は花釜音頭保存会の方々で記念撮影。「楽しかった」「いい思い出になった」という言葉が多く聞かれた

8/14 (木) やりましょう盆踊り (レポート/実行委員会・小川)

in 亶理町吉田地区

◆開催地/亶理郡亶理町吉田大塚185 亶理町吉田地区交流センター
 ◆開催時間/18時30分~20時30分 ◆来場者数/約600名

「亶理音頭で踊ろうじゃないか」。
 色とりどりの花が咲く会場に、盆踊りの大きな輪が広がりました。

ここ亶理町吉田では、長年、コミュニティづくりの核として北・東・西の三区の合同による「浜吉田三区納涼盆踊り大会」を開催していましたが、震災後2年間中止となり、昨年から盆踊り大会を復活させました。しかし、津波により自治会で所有していた櫓などが流出してしまい、昨年は手作りで櫓を作成して盆踊りの開催にこぎつけたとのことでした。

今年は実行委員会から櫓や提灯、太鼓などをお貸ししての開催となりました。宮城県は連日雨模様で天候が心配されましたが、この日は朝から雨が上がり、開催時間が近づくにつれて雲間から青空が見えはじめ、暑さの中にも涼風が吹く絶好の盆踊り日和となりました。

盆踊りは18時30分からスタート。地元・浜吉田地区の方々に、練習会にご参加頂いた踊り手ボランティアの方々、そして山元町花笠地区

の方々が加わり、時間の経過とともに櫓を囲んだ踊りの輪は二重にも三重にも広がり、亶理の四季と名物を歌詞にした「亶理音頭」、そして「相馬盆唄」の2曲で盆踊りは大盛況となりました。

セルコホーム様の出展ブースでは手作りバジルのワークショップや風船などのノベルティ配布が行われ、子どもを中心に常に多くの人で賑わいました。馬上かまぼこ様の商品カタログには皆さま興味津々。また、フェニーチェホーム様、城南建設様のうちわは多くの踊り手が使用。祭り気分を盛り上げていました。ココヨ東北販売様の「ドラえもん」ノートはお子さまに、スティックのりは大人の方にお配りし、多くの皆さまに喜ばれました。

「地域住民のふれあいの輪を一層広げることが出来た」という今回の盆踊り大会。会場に咲く大輪のひまわりと花々が、浴衣に身を包んだ踊り手さんたちの輪とオーバーラップした印象的な一夜となりました。

協賛社ブース出展内容

- 馬上かまぼこ様/商品カタログ配布
- セルコホーム様/着ぐるみ「セルコペアー」出演、ワークショップ:光るキンキラピンバジ、会社カタログ、オリジナル風船、ドリンク各種、うちわ配布
- ココヨ東北販売様/幼児向けとしてドラえもんノート配布、成人用としてスティックのり配布
- 城南建設様/チラシ配布、うちわ配布 ○フェニーチェホーム様/チラシ配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布 ○着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

- 櫓/一式 ○太鼓/一式 ○音響/一式 ○テント/2張 ○発電機/3台 ○照明/4灯式投光器×2台 ○焼き鳥セット ○アイスBOX ○スーパーボール
- テーブル/10脚 ○椅子/30脚

出店内容

- 屋台/焼き鳥、スーパーボールすくい、ビール、ドリンク類販売 ○移動販売車/ドーナツ、かき氷、ドリンク類、ケバブ販売



会場となった亶理町吉田地区交流センター近辺は東日本大震災の際、約1.5mの津波に覆われた。津波が到達した事を示す「波末の地」石碑。



協賛社一覧の看板を制作し、櫓の前に掲出。祭りの途中でMCに協賛社様の社名をアナウンスしていただいた。



セルコホーム様のイメージキャラクター「セルコペアー」着ぐるみが登場。「かほピョン」とともに会場を盛り上げた。



宮城県の今年のお盆期間は雨の日が続いたが、この日は朝から雨が上がった。心地いい風が吹く「盆踊り日和」となった。



セルコホーム様の出展ブースではオリジナルバジル製作ワークショップの開催やノベルティ配布が行われ、常に多くの人であふれていた。



会場は全国から支援をいただいた浴衣を着た地元の方々と、浴衣を着た踊り手ボランティアで華やいだ。



会場となった亶理町吉田地区交流センターには花壇が設けられ、そこかしこに色とりどりの花が咲いていた。踊りの輪に花々が彩りを添えた印象的な風景だった。



開演前に盆踊りの確認の意味を込めて練習の輪が広がった。この日は「相馬盆唄」と「亶理音頭」の2曲を踊った。



18時30分、定刻通り「やりましょう盆踊り亶理町」がスタート。開演と同時に櫓を囲んで大きな輪が広がった。



馬上かまぼこ様の商品カタログ、城南建設様のうちわとチラシ、フェニーチェホーム様のうちわ、ティッシュ、チラシ、ココヨ東北販売様のノートとのりを配布。



会場の隅に咲いていた大輪のひまわり。津波に覆われた浜吉田地区だったが、住民たちの手により花々が美しく咲いていた。



一昨年「やりましょう盆踊り」を開催し、七夕まつり2日目にも参加して頂いた山元町花笠地区の方々も踊りの輪に加わった。



この日の踊り演目「亶理音頭」「相馬盆唄」の2曲はすべて生演奏に生頭で行われ、あたたかみと風情のある盆踊りとなった。



出店の焼き鳥にスーパーボールすくいは多くの人で賑わい、好調な売れ行きを見せた。



常に踊りの輪が途絶えることなく、終了時間が近づいても櫓のまわりには二重・三重の輪が広がった。



「先人たちが築いてきた心豊かな地域づくりにふさわしい盆踊りになった」と浜吉田各区の会長たちは笑顔で口を揃えていた。

8/16 (木) やりましょう盆踊り (レポート/実行委員会・土井)

⑤気仙沼市唐桑町大沢地区

◆開催地/気仙沼市唐桑町大沢(通称:町屋敷)
 ◆開催時間/18時~21時30分 ◆来場者数/約300名

津波被災地の古里で久々に再開。 盆踊りとともに鎮魂と地縁の再生を願う。

大沢地区は震災時7メートル近い津波が襲い、約190戸のうち約8割が流失あるいは浸水の被害を受けました。仮設住まい、他地区移転等住居環境が分散差が出てきていますが、「散り散りになった住民が集まる場所になって欲しい」という願いから昨年に引き続き盆踊りが開催されました。会場は、地元で通称「町屋敷」と呼ばれている場所で、震災後は復旧工事関連企業の待機所となっています。昨年は小ぢんまりした櫓を用意していたようですが、今年は櫓、テント、音響設備の他、綿菓子等のアトラクション、運営に関わる設備一式をお貸しました。

当日は小雨が断続的に降り続き、開催が心配されました。しかし、15時過ぎからは雨も止み、18時から地元の皆様による打ち囃子をオープニングに開始され、その後、震災犠牲者への黙とうが行わ

れました。お祭りでは「大漁唄い込み」「相馬盆唄」等の他、「マイムマイム」「ジンギスカン」というリズムカルな曲も踊られました。また、来年度に閉校してしまう小原木中学校の生徒による「よさこいソーラン」やボランティアの出演者による三味線演奏等も繰り広げられました。

セルコホーム様の出展ブースではお菓子抽選会が行われ、家族連れや地元の皆様で賑わい、フェニーチェホーム様のブースで配布されたうちわも会場でも利用されていました。

最後は愛知県煙花組合有志から提供された花火で会場が華やかに彩られ、大いに盛り上がりました。自治会役員の方が「これを機に震災前の強い絆が戻ってきて欲しい」と語られている姿が印象的でした。

協賛社ブース出展内容

- セルコホーム様/お菓子抽選会
- ココヨ東北販売様/幼児向けとしてドラえもんノート配布、成人用としてスティックのり配布
- フェニーチェホーム様/チラシ配布、うちわ配布、ポケットティッシュ配布
- 着ぐるみ「かほピョン」出演

レンタル備品

- 櫓/一式 ○太鼓/一式 ○音響/一式 ○テント/2張 ○発電機/3台 ○照明/4灯式投光器×2台 ○綿菓子 ○ポップコーン ○射的
- スーパーボールすくい ○輪投げ ○テーブル/10脚 ○椅子/30脚

出店内容

- 屋台/綿菓子、ポップコーン、射的、スーパーボールすくい、輪投げ、ビール、ドリンク類配布



気仙沼市唐桑町大沢地区は漁港もある海に面した土地。震災時は大きな被害を受けた。



盆踊り会場の近くには「地震があったら津波の用心」という石碑が。過去にも津波による被害があったことが窺い知れる。



大沢地区には全国から多くのボランティアが集う。ボランティアが建設した交流施設「大沢カフェ」。



かほピョンと遠方からご参加いただいた踊り手ボランティアの方々。かほピョンはここ唐桑町でも人気者。



会場には全国から集まった大学生ボランティアが作成した震災前の大沢地区のジオラマも展示された。懐かしそうに眺めていた。



お祭りのオープニングを飾るは打ち囃子。威勢のいい太鼓の音とともに始まった。



地元住民の他、学生ボランティア、踊り手ボランティアによってつくられた盆踊りの輪。鎮魂と町の絆の再生を願い踊る。



震災被害者への黙とう。鎮魂の祈りで会場が包まれる。



セルコホーム様出展ブースでは、お菓子抽選会を開催。子どもはもちろん大人も多く参加し賑わいをみせた。



フェニーチェホーム様出展ブースでは、ポケットティッシュ、うちわ、チラシが配布され、会場内にはうちわで顔を仰ぐくさむ。



「やりましょう盆踊り」により貸し出された射的コーナー。アトラクション類は学生ボランティアが担当。楽しそうに地元の方々とふれあっていた。



「ジンギスカン」「マイムマイム」などリズムカルな曲も。子どもたちも櫓の上で上手に踊っていた。



会場脇の道路を照らす印象的な明かり。昨年は会場が暗くわかりづかったことから学生ボランティアが子どもたちと一緒に作ったという。



来年度の閉校が決まっている小原木中学校の生徒による「よさこいソーラン」。地元の方は口々に残念だと語っていた。



お祭りのエンディングを飾る愛知県煙花組合有志が打ち上げた花火。予想以上の迫力に首、声を上げた。



子どもたちは花火に夢中に。自治会の役員の方々は、地区にはなくなってしまう行事もあり、もう一度昔のような一体感のある町に戻って欲しいと念じている。

7/26 (土) やりましょう盆踊り

(レポート/実行委員会・小野)

in 川崎町

◆開催地/ポトピア川崎イベント会場 ◆開催時間/15時～21時

手筒花火と打揚げ花火の饗宴。参加自由盆踊り体験。

ポトピア川崎様の依頼で参加しました、「2014みちのく川崎花火フェスタ 手筒花火と打揚げ花火の饗宴」。昨年に続き2度目の参加で、暑い夏祭りを盆踊りで盛り上げて来ました。この「2014みちのく川崎花火フェスタ」は川崎町、川崎町観光協会、ポトピア川崎様などが運営主体となり川崎町民はもとより、仙台市、山形市など広域より集客がある、このエリアの夏の一大イベントです。目玉は「蒲郡西町に組」による「手筒花火」であり、火薬を詰めた孟宗竹

に縄を巻き締め、手筒衆が命がけて巨大な火柱を噴出させます。火柱が頂点に達すると「はね」と呼ばれる地面に吹き出す爆発で最高潮を迎えます。それを楽しみに待つ間に行う盆踊り。さらに今回は気温も湿度も高く、踊り出すには条件が少し厳しく参加者が集まってくれるのか不安でしたが、おなじみの「七夕おどり」の曲が流れると人が徐々に集まり、きれいな踊りの輪が完成しました。盆踊りと花火…この夏の素敵な思い出がまた一つ増えました。



気温30度、湿度80%を超える暑い一日だった。



初めての人もわかりやすく盆踊りを指導した。



夕暮れとともに徐々に人が集まり始めた。



豪華な手筒花火。輝く火の粉が夜空に舞った。

8/23 (土) やりましょう盆踊り

(レポート/実行委員会・若山)

in アリオ仙台泉

◆開催地/アリオ仙台泉(仙台市泉区泉中央1-5-1)
◆開催時間/①13時00分～14時30分 ②16時00分～17時30分

泉区民ふるさとまつりの開催当日に盆踊りでお祭りムードを盛り上げました。

花火大会など毎年約20万人が訪れる泉区民ふるさとまつりの開催当日、泉中央駅に隣接する商業施設アリオ仙台泉のセンターコートに「やりましょう盆踊り・浴衣記念撮影会・みやらボ!撮影会」が開催されました。

盆踊りを初めて踊ったという高校生や、懐かしくて飛び入り参加したという方もあり、会場内には、仙台市内でなじみのある「七夕お

どり」「宮城野盆唄」や「宮戸音頭」「炭坑節」などの曲が響き渡りました。

また、同じ会場内では「浴衣記念撮影会」「みやらボ!撮影会」も開催され、買い物やお祭りに来た方々のムードを盛り上げるイベントとなりました。



やりましょう盆踊りと同時開催の浴衣記念撮影会の様子。友達や家族と一緒に150組以上の方が参加。



高校生も盆踊りに飛び入り参加。初めての盆踊りをしっかりマスターできたこと。



アリオのマスコットキャラクター「アリオ君」と「アリオちゃん」も浴衣姿で登場。



お母さんと一緒に来た小さなお子さまも盆踊りの輪に加わり、楽しく踊ることができた。

皆さまの声

8/6 (水)・7 (木) やりましょう七夕おどり・盆踊り

in 仙台七夕 仙台七夕まつり協賛会「仙台・七夕おまつり広場専門部会」 部会長 田中 昌志氏

8月8日(金)は雨天により中止



今年4年目となる「仙台七夕・おまつり広場」では、勾当台公園市民広場にある「織姫像」を中心に様々なアーティストのパフォーマンスを展開する『織姫エ

ア』の設置や、仙台・宮城の食の魅力を丸ごとお届けする『伊達美味(だてうま)エリア』の設置など、仙台市民、とりわけ若い世代の人達に関心を寄せていただけると新しい企画を取り入れました。特に、夕方から夜にかけては、つなぎ横丁(国分町・仙台第一生命ビル西側道路)に櫓を設置し、東松島市や山元町など被災地からも踊り手をお招きして、ステージ出演者、観客、市民が一緒になって七夕おどりや県内各地の盆踊りを踊りました。互理町出身の歌手、美波京子さんの歌声による七夕おどりを皮切りに、宮城

野盆唄(仙台市)、宮戸音頭(東松島市)、花笠音頭(山元町)などを老若男女が一つの輪になって踊る姿に、復興へ向かって一歩一歩踏み出している確かな手ごたえを感じました。来年も、夏の夜空に復興への願いを込めて、心一つに笑顔で踊ることを楽しみにしています。「やりましょう七夕おどり・盆踊り」を企画していただいた河北新報社グループさんはじめ、踊りにご参加いただいた皆様、その他ご支援ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

来年も、夏の夜空に復興への願いを込めて、心一つに笑顔で踊ることを楽しみにしています。「やりましょう七夕おどり・盆踊り」を企画していただいた河北新報社グループさんはじめ、踊りにご参加いただいた皆様、その他ご支援ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

来年も、夏の夜空に復興への願いを込めて、心一つに笑顔で踊ることを楽しみにしています。「やりましょう七夕おどり・盆踊り」を企画していただいた河北新報社グループさんはじめ、踊りにご参加いただいた皆様、その他ご支援ご協力をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

やりましょう七夕おどり・盆踊り in 仙台七夕 (支援先から来場した皆さん)

8/6 (水) 東松島市宮戸

昨年の「やりましょう盆踊り」開催地、東松島市宮戸からは約20名の方にお越しいただきました。終了後には宮戸市民センターの奥田センター長より「本日はお招き頂きありがとうございました。天候もなんとか回復して、メンバーも仙台の方々に宮戸音頭を披露出来て楽しかったです。週末は自分たちのお祭りがあるので、前哨戦としても弾みがつきました!」という言葉をいただきました。



8/7 (木) 山元町花笠

津波被害で運休中のJR常磐線山元駅の周辺に広がる花笠地区から花笠音頭保存会の約40名が参加されました。花笠音頭は30年ほど前にできた当地民謡に、震災後に輪踊りを振り付けて盆踊り曲になったもの。盆踊り終了後は「こういった場を設けていただき気持ちの張り、刺激になった。」「東北三大祭りの仙台七夕で花笠音頭を踊ることができ感激!」などの声が聞かれました。



8/8 (金) 石巻市不動町

8月8日(金)は、石巻市不動町から約20名の方に来ていただきましたが、残念ながら夕方からの雨により中止となりました。不動町の皆様には、「少しでも晴れ間があれば」と、スタンバイしていただきましたが中止決定の知らせに「本当に残念」とがっかりされた様子でした。「せっかく来たんだから七夕見物を!」ということで皆様に仙台七夕を見学して帰路につかれました。



せっかく来たんだから七夕見物を!というので皆様に仙台七夕を見学して帰路につかれました。

8/14 (木) やりましょう盆踊り

in 互理町 浜吉田東区長 山田 勇氏



好天に恵まれた浜吉田三区主催納涼盆踊り大会。予想を上回る大勢の皆さまのご参加をいただき、役員一同心より感謝を申し上げます。櫓を中心に、唄とお囃子、踊り手が集い、それを観る方々の視線が一致し、浴衣姿のお年寄り、若いお母さんたちのそばで見よう見ま

ねで互理音頭、相馬盆唄を踊る子どもたち、そんな踊りの輪が二重三重に広がりました。近隣市町村からの友情参加や踊り手ボランティアの方々の参加もあり、盆踊りを通してふれあいの輪が一層広がりました。私たちのコミュニティの核として、先人たちが繋いできた「心豊かな地域づくり」にふさわしい納涼盆踊り大会となりました。

このような素晴らしい盆踊りを開催することができたのも「やりましょう盆踊り」の企画とご協賛企業各

社様の支援があってこそです。また、この盆踊り開催のためにご準備をいただきました各種団体の関係者の皆さま、出店を出していただきました婦人防火クラブ、PTA役員の皆さま、準備の段階からご支援をいただきました互理町吉田地区交流センターの皆さま、吉田東部地区まちづくり協議会の皆さまのご尽力に対し感謝を申し上げます。

8/16 (土) やりましょう盆踊り

in 唐桑町 大沢地区自治会 副会長 吉田 恵一氏



8月16日当日は朝から雨天模様でしたが開催時間が近づくと雨が止み、待望のお祭りを開催することが出来ました。夜は縁日コーナーのテントが連なり、櫓の四方には延々と続く提灯、沿道には小学生による送り火の長い連なりが灯り、子供の頃に見たサーカス小屋を思わせる華やかな世界でした。

大沢地区は被害の少ない在所の住民と、小原木小学校・中学校敷地内の仮設住宅に住民が分散し、コミュニティの維持が課題となっていました。櫓を囲んで輪を作ることに心をつなぐ、お祭りの開催を模索していたところに「やりましょう盆踊り」の支援を受けることができました。

150人を超す大沢地区の住人と、東京や仙台からの唄い手や踊り手ボランティアの方々約30名様による共演で、大きな輪を作ることができました。小原木小

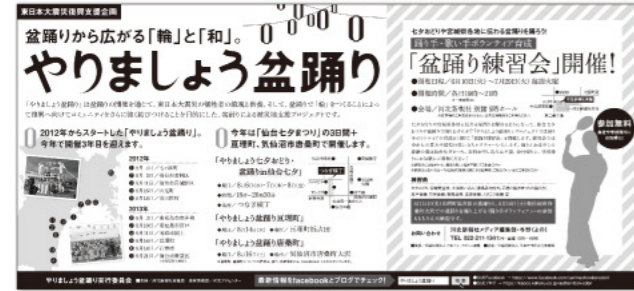
学校の生徒による太鼓演奏、小原木中学生の生徒によるよここいソーラン踊りも披露され、会場は興奮と熱気に包まれました。北海盆唄や相馬盆唄、炭坑節に加えて、マイムマイムやジンギスカンを踊り、踊りの輪は終始盛り上がりつづいていました。

最後には花火大会が行われ、打ち上げ花火でお祭りを締めくくりました。やりましょう盆踊り実行委員会をはじめ、ご支援ご協力をいただいた皆さまに心より感謝を申し上げます。

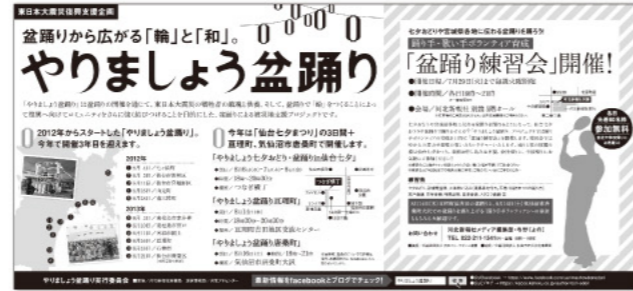
やりましょう盆踊り 広告展開

開催告知および盆踊り練習会告知広告

河北新報朝刊・全5段モノクロ広告スペースで6月10日(火)と7月13日(日)の2回にわたって、本年度の「やりましょう盆踊り」および「盆踊り練習会」の開催告知広告を掲載しました。



▲河北新報朝刊6月10日(火)掲載 全5段モノクロ広告



▲河北新報朝刊7月13日(日)掲載 全5段モノクロ広告

開催告知広告

8月4日(月)、河北新報朝刊全15段カラー広告スペースで本年度の開催告知広告を掲載しました。浴衣に身を包んだ女の子と男の子が笑顔でこれから盆踊りに向かう姿をメインビジュアルにし、これから始まる期待感を醸成。開催場所の詳細と併せて各代表の方々の開催に寄せる思いを紹介しました。また、6月10日(火)から7月29日(火)の2か月間に開催された「盆踊り練習会」の報告も紙面に掲載しました。



▲河北新報朝刊8月4日(月)掲載 全15段カラー広告

開催報告広告

9月5日(金)、河北新報朝刊全15段カラー広告スペースで本年度の開催を報告する広告を掲載しました。開催告知広告に登場した女の子と男の子が盆踊りから帰る姿をメインビジュアルに、「盆踊り練習会」、「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」、「やりましょう盆踊り」の様子を写真で紹介するとともに各代表の方々の開催を終えての言葉を紹介しました。



▲河北新報朝刊9月5日(金)掲載 全15段カラー広告

特集記事



大仙台圏に44万部発行するフリーペーパー「河北ウィークリーせんだい」、7月31日号の中面特集として「浴衣で踊ろう夏祭り」を発行。「やりましょう七夕おどり・盆踊りin仙台七夕」、「やりましょう盆踊り亙理町」、「やりましょう盆踊り唐桑町」で踊る各盆踊りを紹介するとともに、AR(拡張現実)システム「COCOAR(ココアル)」を用いて、スマートフォンでマーカーを読み込むと盆踊り練習会での踊りの動画が流れるように仕組みました。

◀河北ウィークリーせんだい 7月31日号中面特集「浴衣で踊ろう夏祭り」

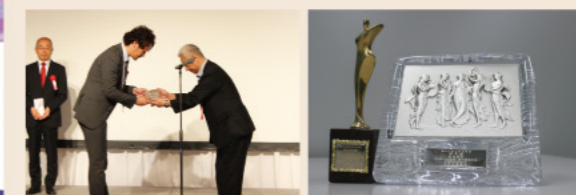


仙台広告協会による第44回仙台広告賞で、2013年の「やりましょう盆踊り」開催告知広告・開催報告広告が新聞部門審査員特別賞・制作者賞を受賞しました。



▲昨年の河北新報朝刊 全15段カラー広告

今年6月30日(月)、仙台広告協会による第44回仙台広告賞の授賞式が行われ、「やりましょう盆踊り」の開催告知広告・開催報告広告全15段カラー広告が新聞部門審査員特別賞・制作者賞を受賞しました。被災地で盆踊りを開催する活動内容と「やりましょう」という活動タイトル等に評価をいただきました。



やりましょう盆踊り 各種ツール

盆踊り練習会告知ポスター

盆踊り練習会の告知ポスターを制作し、100部印刷。学校や公共施設に配布・掲出し、広く、盆踊り練習会への参加を呼びかけました。

オリジナル手ぬぐい

仙台の伊達文化の染め技法を今に引き継ぐ「永勘染工場」による、ご協賛各社様のロゴを染めたオリジナル手ぬぐいを2,000枚製作。頭や首に巻いたり多くのご来場の方に使用されました。



やりましょう盆踊り 協賛社一覧 (順不同)



やりましょう盆踊り 協賛社一覧 (順不同)



会場設置看板

全会場にご協賛各社様のロゴをレイアウトした会場看板を製作。ご来場いただいた方の目に留まる場所を考慮して各会場で設置。多くの方の関心を集めました。

つなぎ横丁入りロタワーサイン

「やりましょう七夕おどり・盆踊りin 仙台七夕」の会場「つなぎ横丁」にタワーサインを設置。当日のプログラムと協賛社一覧を記載し、七夕まつりに訪れた方々の注目を集めました。



やりましょう七夕おどり盆踊り in 仙台七夕

「やりましょう盆踊り」は下記企業の皆様にご協賛いただき、開催しております。



やりましょう七夕おどり盆踊り in 仙台七夕

2014年8月6日(水)・7日(木)・8日(金) 18:00~20:30

プログラム	
18:00	やりましょう七夕おどり 踊り曲目/七夕おどり 唄い手/美波京子さん
18:30	やりましょう盆踊り ①踊り曲目/宮城野盆唄 ②宮城県内各地に伝わる盆踊り ・8月6日(水) 踊り曲目/宮戸盆唄 (宮城県宮戸盆唄) ・8月7日(木) 踊り曲目/花巻盆唄 (宮城県花巻盆唄) ・8月8日(金) 踊り曲目/大連舞い込み十道盆唄 (宮城県大連盆唄) ③相馬盆唄
20:05	やりましょう七夕おどり 踊り曲目/七夕おどり 唄い手/美波京子さん ご来場の皆さまと合唱
20:30	終了

開催告知ポスター



「やりましょう盆踊り」開催告知ポスターを亘理町・唐桑町の2種類を制作し、自治会に提供。開催地の町内の各所に掲示していただきました。

やりましょう盆踊り 各種メディアでの取り上げ



▲河北新報朝刊/7月17日掲載記事



▲河北新報朝刊/8月7日掲載記事

河北新報グループ東日本大震災復興支援企画 やりましょう盆踊り

踊り手・歌い手ボランティア募集

今夏で3回目の「やりましょう盆踊り」では、支援先会場を踊りで盛り上げる浴衣男子・浴衣女子と、和楽器の演奏者で盆唄を歌ってみたい方を募ります。初心者大歓迎。練習会に、ぜひご参加ください。

- 練習会
日時/6月10日～7月29日の毎週火曜19:00～21:00(計8回)
会場/河北新報社・活動5階ホール(青葉区五橋1-28)
参加費/無料 練習曲/七夕おどり、宮城野原など10曲程度
- 支援先(いずれも夜)
8月6日～8日 仙台七夕まつりつなぎ横丁
14日 木理町吉田浜地区、16日 土気山市民会館大沢地区
間/やりましょう盆踊り実行委員会 踊り手・歌い手ボランティア隊
(河北新報社メディア編集部・与野)

▲河北ウイークリーせんだい/ 6月5日発行号、6月12日発行号

編集部を子どもと公開

編集部をもっと身近に感じてもらうべく、部内で話題の物や出来事を不定期で紹介していきます。

今週のテーマ → やりましょう盆踊り

河北新報グループ東日本大震災復興支援企画の「やりましょう盆踊り」。踊り手・歌い手ボランティアの練習会が盛り上がりつつあります。踊りの指導は一昨年からウイークリー編集部Yが主導。先日の練習会には親子連れから70歳代の方までの60人ほどが、東松島市の宮戸音頭などに挑戦していました。やりましょう盆踊りは仙台七夕まつりの8月6日・7日・8日に加え、青葉区勾当公園近隣のつなぎ横丁を会場に18:00～20:30本番です。踊ってみたい方はぜひご参加ください。14日(木)に木理町、16日(土)に気仙沼市唐桑町でもあります。

▲河北ウイークリーせんだい/ 7月24日発行号

笹かざりを満喫したら、七夕の伝統に触れながら、ほっとひと息。 仙台七夕おまつり広場は、楽しいイベントが盛りだくさん!!

伝統的からアートまで、仙台七夕の魅力をあつらひる文化館から開催される「仙台七夕おまつり広場」です。仙台の七夕飾りの「伊達舞踊」を始め、復興を応援する由緒ある仙台織物の展示や、LEDイルミネーションによる幻想的な「天の川」の演出や夜更の願いを込めたキッパアートも魅力です。

また、再会を願う被災者支援を目的とした「アートプロジェクト」では、被災地からのアーティストやボランティア等が参加してワークショップを開催します。子供から大人まで参加できる七夕広場エリアでは、七夕飾りの伝統である紙と竹を使った「七夕飾り」願い「願い」等を手紙できるコーナーも用意しております。

▲S-Style 7月号 ともレポ35

やりましょう七夕おどり・盆踊り in 仙台七夕

盆踊りの情報を通して、震災の犠牲者の追悼と復興、そしてコミュニティの再建を目的とした「やりましょう盆踊り」プロジェクトが、「仙台七夕」ココロプレス・LEDイルミネーションによる幻想的な「天の川」の演出や夜更の願いを込めたキッパアートも魅力です。

また、再会を願う被災者支援を目的とした「アートプロジェクト」では、被災地からのアーティストやボランティア等が参加してワークショップを開催します。子供から大人まで参加できる七夕広場エリアでは、七夕飾りの伝統である紙と竹を使った「七夕飾り」願い「願い」等を手紙できるコーナーも用意しております。

▲S-Style 8月号 ともレポ36

仙台七夕「おまつり広場」七夕の伝統や、盛りだくさんのイベントで仙台情緒を満喫

今年は、これまでになかった「artanabata」と題した音楽と七夕まつりのコラボレーション企画と、後の「やりましょう七夕おどり・盆踊り in 仙台七夕」イベントが加わり、景外の観光客も増加し、地元の人々も参加する見込みです。

artanabataでは、様々なワークショップに参加する機会を得るという「やりましょう七夕おどり・盆踊り in 仙台七夕」では、遠州管内被災地の盆踊りの踊り手を招きながら、安心安全なで楽しい盆踊りが繰り広げられました。

▲S-Style 9月号 ともレポ37

E みんなが集まるお祭りゾーン つなぎ横丁

日中は、楽しい「縁日コーナー」。夜は「七夕おどり」会場に。みんなで輪になり、踊りましょう。

子どもも楽しい「縁日コーナー」 11:00 - 16:00

スーパーボールすくいや、水ヨーヨーつり、射的にボールプーンなどお子様だけでなく大人も童心に戻って楽しめます。

やりましょう 七夕おどり・盆踊り in 仙台七夕 18:00 - 20:30

七夕おどりや宮城県各地に伝わる盆踊りを踊ってみませんか? お気軽にご参加ください!!

▲S-Style 8月号 記事

E みんなが集まるお祭りゾーン つなぎ横丁

日中は、楽しい「縁日コーナー」。夜は「七夕おどり」会場に。みんなで輪になり、踊りましょう。

子どもも楽しい「縁日コーナー」 11:00 - 16:00

やりましょう七夕おどり・盆踊り in 仙台七夕 18:00 - 20:30

スーパーボールすくいや、水ヨーヨーつり、射的にボールプーンなどお子様だけでなく大人も童心に戻って楽しめます。

▲S-Style 8月 増刊号

- 東北放送/Nスタみやぎ8月7日放送
- 山元町臨時災害FM放送局



▲河北新報気仙沼地域版「リアスの風」2014年8月23日(土)掲載



▲第3回国連防災世界会議 仙台開催実行委員会 公式ページ内 「防災・復興レポート」 <http://www.bosai-sendai.jp/>



宮城県復興ブログ「ココロプレス」 <http://kokoropress.blogspot.jp/>

Facebookによるタイムリーな情報発信

24時間365日、いつでもタイムリーに情報発信できるFacebookの利点を活かし「やりましょう盆踊り実行委員会公式Facebookページ」を運営。実行委員会による、盆踊り練習会の風景から開催告知を行い、また、開催期間中には会場からリアルタイムで画像を投稿。フォロワーとなる「いいね!」の獲得は平成26年9月現在で179件。1件の投稿につき平均200人以上の閲覧者を獲得し、最大で1,000人近い閲覧者を獲得した投稿もあった。

やりましょう盆踊り実行委員会公式Facebookページ <https://www.facebook.com/yarimashowbonodori>

公式ブログで報告と詳細情報を発信

河北新報社が運営する「河北新報オンラインコミュニティ」で、自治会の方々との打ち合わせの様子や開催した盆踊りの報告など詳細情報を発信した。

やりましょう盆踊り公式ブログ <https://kacco.kahoku.co.jp/author/bon-odori>

